

2018年10月9日

ジャカルタジャパンクラブ
会員各位

ジャカルタジャパンクラブ
海外邦人安全対策連絡協議会

安東総括公使冒頭挨拶

9月28日に中部スラウェシ島で地震と津波が発生。5,000名近くの方が避難を要する状況にあるが、日本政府の対応を紹介すると、10月1日には安倍総理からジョコウィ大統領に対してお見舞いメッセージを発信し、また河野外務大臣からも同様のメッセージを発信した。日本政府として、インドネシア政府及び国民に対しお見舞いを申し上げるとともに、積極的な支援を申し上げている。

その後、インドネシア政府からは支援物資のリストを入手し、C130輸送機を派遣し、輸送協力を行っている。また、JICAを通じて、支援物資のテント、浄水器、発電機などを提供。支援物資は、既にパリクバパンに到着し、パル市に順次輸送されている。

また日系企業からの支援については、医薬品メーカからは薬の提供などがあり、またその他の企業では、現場に人的支援を行っている企業の声もある。大使館としても感謝申し上げる。日本企業からの支援については、総額をインドネシア政府に示すことで、オールジャパンで強力に支援していることをアピールしたい。

最近の政治・治安情勢について

安定した情勢といえる。当局の警戒・監視レベルも高い。

ジャカルタでは、アジアパラ大会が開幕し、警察や軍あわせて1万人体制で警備にあたっている。8月のアジア大会との違いは、アジア大会がジャカルタとパレンバンと分散したことに加え、ジャカルタ市内でも競技会場が分散していたが、アジアパラ大会は、ゲロラ・ブンカルノ競技場の周辺に限定されている点であり、警備がしやすい大会になっている。

IMF・世界銀行総会がバリ島で開幕するにあたり、各国の政府要人やビジネスマン等約1万5千人が、バリ島へ集結する。これに対し、2万6千人体制で警察や軍が協働して警備に当たる。

邦人に関わる最近の事件・事項報告

9月26日19時頃 クマンエリアのレストランにてパスポート・財布などを置引きされる事件が発生。被害者の免許証のみ残された財布は見つかったものの、ごみ箱に残されていた。男性はカバンを目に付かない椅子の上に置いてしまったため気が付かなかった。予防策は、目に届く場所に置くことが必須である。

8月のアジア大会中は、治安当局の効果もあり犯罪件数は減ったが、9月に入り一般犯罪件数は増加傾向にある。特に市内ではスリが増加している。また、カーフリーデーでは毎回数十件の被害報告がある。

ブカンなどの東部地域ではバイクを利用した犯罪が増えている。

アジアパラ大会の関係で、市内では警備体制は高い。アジア大会中のデモは認めないことになってい

る。アジア大会に伴う交通規制については、正式なアナウンスがない。警察関係者の言質のみだが、土日の規制はしないとのこと。高速道路では特殊大型車両の乗り入れは規制する。13日（土）、閉会式はアジア・アフリカ通りなどのゲロラ・ブンカルノ競技場周辺は交通規制をかける。

（領事部からの補足）

アジアパラ大会中は、トランスジャカルタ（バス）が無料になるため、乗車率が高くなる。バス内の人混みの中でスリ・窃盗が発生するので注意が必要。

9月28日中部スラウェシ地震が発生した。マカッサル領事事務所が、地震発生のお知らせと邦人被害の安否確認のため第一報を発信し、翌29日には余震情報と邦人被害の安否確認のため第二報を発信したが、「たびレジ」に登録していれば着信があったと思う。「在留届」に基づいて安否確認を行ったところ、3名に連絡が付かなかったが、2～3日の時間を要して最終確認ができた。結果、2名は帰国済み、1名は震源地から離れたところに在留していたが、地震の影響で携帯が使用できない状況にあった由。

当地に在留する邦人は「在留届」を提出し、短期出張者、旅行者については、「たびレジ」の登録をお願いしたい。登録することでスラバヤ、マカッサル、バリ、メダンの在インドネシアの各在外公館からの情報や連絡が入る。「たびレジ」の「簡易登録」でなく、「本登録」をしていただければ、在外公館として邦人の方々の具体的な滞在状況を把握することができる。また「在留届」は既に提出していると思うが、登録した時点での情報の確認をお願いしたい。住所、携帯等の連絡先の変更があれば更新いただきたい。大使館領事部に問い合わせれば、現登録状況や変更対応も可能である。この機会に更新してほしい。災害発生時の安否確認は時間との勝負になる。転出届、帰国届も徹底してほしい。

最近の医療事情等

ロンボク島地震では2ヶ月たった現在でも10万人以上の避難者がおり、マラリアが流行している。また、相当数のデング熱、腸チフスも流行していると思われる。今後はスラウェシ島でも被災地を中心に同じような状況になる事が危惧される。また、排泄物を介した病気が蔓延する可能性が高いため、救助活動などに行かれる際には注意が必要。

ジャカルタには2年間の勤務だが、異動になる。後任が着任予定である。

質疑応答、各社からの報告等

1) スラウェシ島地震に際してはロンボク島同様に、IPMG 経由で医療機器や医療品のリストを元に支援を行っている。

2) 本日の報道で、日系航空会社の第3ターミナルへの移動が挙がっていたため、各航空会社の移転について情報共有をお願いしたい。

（JAL）

1) 移転については、10月26日JAL725便 スカルノハッタ空港16：50着便から第3ターミナルへ移動になる。また、726便の21：55出発便、729便の23：50到着便は第3ターミナル。詳細の案内は遅くなっているが、ホームページへ掲載していく。早ければ今晚、

遅くとも明日には掲載する。なお、同日10月26日JAL720便 スカルノハッタ空港06:45出発便は第2ターミナルからの出発となるので、十分ご留意頂きたい。

(ANA)

ANAの正式決定はまだない。現段階でのアナウンスはできない。

ANAから空港財団へのリクエストに対して、回答がないことが大きな理由。JALの状況を鑑みて日本人の皆様には方向感を示させていただきたいと思っている。

現段階はJALと同日の移動はないことは確実である。11月以降の予定で調整中である。

3) 最近、自社内で2名が腸チフスに罹患した。

4) 置きき事件が9月7日(金)20時、レストラン海宝丸(BLOCK-M)にて発生した。日本人4人で食事中に、インドネシア人5名が入店。暫くしてインドネシア人の2名がトイレに行き、その帰りに1人がカバンを奪って逃げた。残りの3名は携帯を持って見張りをしていた。

被害者は犯人を追いかけ捕まえ、BLOCK-Mの交番に報告。ウィジャヤ・ポリス・ステーションにも警官同行で報告した。被害状況は、パソコン、パスポート、財布(クレジット・現金USD)。現状では警察から何も連絡がない。

5) ロンボク島・スラウェシ島地震が次々に発生。以前、東京都が発行する「東京防災」という冊子を紹介したが参考になる資料である。インドネシアでは耐震基準などが徹底されておらず対策されていないケースもある。

ジャカルタでの地震が発生した場合は、深刻な事態になる。たとえば自分が住むマンションにはアッセンブルポイントがあるが収容できるキャパがないと思われる。安全の手引きの第2弾として、アパートへの引越した際の注意点なども掲載した冊子を作成してはどうか。冊子の作成に向けて動くのであれば協力したい。

6) ①9月13日避難訓練を実施。地震対策をテーマに行った。

避難訓練を終えた中で協議になったのが、ヘルメットの購入について。小学校高学年以上はヘルメットを自分で着用できるが、低学年には被ることが非常に難しいため検討が必要である。

②9月26日体育祭を実施。開門前の朝の4時前から列をなす状況。6時の開門時には100名が列を作っていた。車両についても783台がグラウンドに駐車。出入りの点でセキュリティチェックが面倒ということで、地域道路に停車している事例があったため改善を検討しなければならない。タバコ・ごみなどの問題はなかった。

7) ロンボク島・スラウェシ島の日系企業の支援状況の報告。JJCの会員企業から、ロンボク島は87社65億ルピア、スラウェシ島は37社80億ルピアの報告をいただいている。企業で被災地への支援があれば報告をお願いしたい。

領事部から補足

次回の海安協の日程については、一週間後ろ倒しして11月6日（火）でお願いしたい。

外務省から、「海外安全対策セミナー」をジャカルタで開催したいとの要請があった。これは経済団体等にセミナーについてアンケートしたところ、37か国の希望があったが、インドネシアは第2位の開催希望があったことに基づくものである。その他はタイとインドだが、都市別だとジャカルタのみであった。日本からの希望もあり是非開催したい。来年の2月、講師が数カ国を巡回するため、第一週の2月6日（水）開催予定（2月5日（火）は春節）。

安東総括公使から補足

この「海外安全対策セミナー」は、実践的なセミナーになっているので、各位の積極的な参加をお願いしたい。

以上